



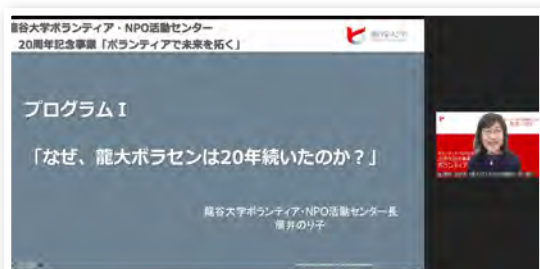
● 20 周年記念事業『ボランティアで未来を拓く』（詳しくは P16）

2001年に設立された龍谷大学ボランティア・NPO活動センターは、20周年を迎えることができました。それを記念して2021年2月11日（木・祝）に記念事業をオンラインにて開催し、259名もの方にご参加いただきました。当日はセンター設立からの軌跡や、学生スタッフ経験者を対象にしたアンケート分析の結果などを報告しました。さらに、学生スタッフ企画や卒業生との交流プログラムなど、学生スタッフが主体となって運営したプログラムも行いました。フォトジャーナリストの安田菜津紀氏と入澤崇学長の対談もあり、盛会のうちにプログラムを終了することができました。



記念事業終了後の集合写真

◆プログラムⅠ・Ⅱ



「なぜ、龍大ボラセンは20年“元気に”続いたのか」
（筒井センター長）



元学生スタッフへのインタビュー
（竹田コーディネーター）

◆交流プログラム



◆プログラムIII 「未来へのバトン～ボラセンでつながれていくもの～」(深草パート)

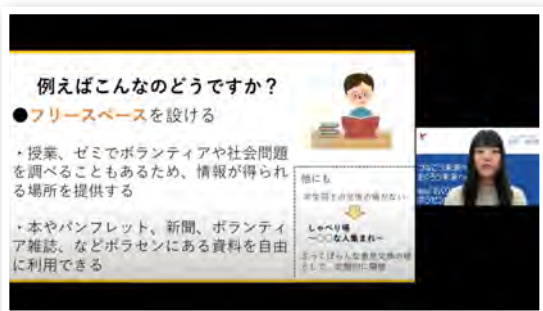


深草パートの動画放映の一コマ



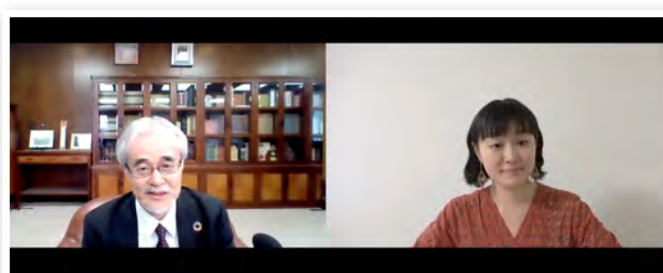
深草パートの当日放映の動画撮影の様子

◆プログラムIII 「おくりもの」(瀬田パート)



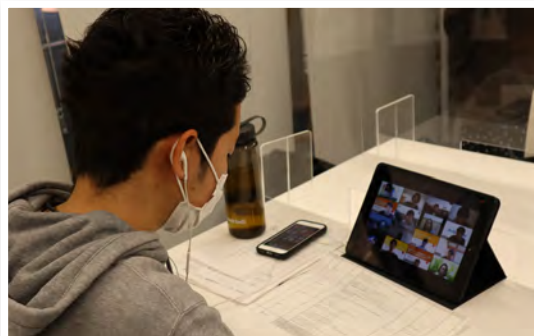
瀬田パートの当日の様子

◆プログラムIV 安田 菜津紀 氏×入澤 崇 学長 対談



◆当日配信の様子

三密を避けるために複数の部屋に分かれ、アクリル板を利用したり距離を取って着席するなど、できる限りの感染症対策をして大学から配信しました。



全プログラム終了後、元学生スタッフのオンライン同窓会を行いました。



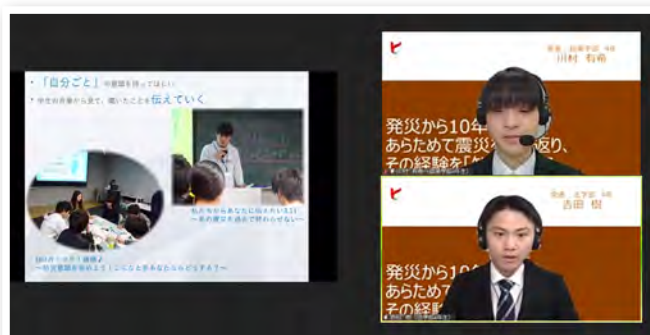
●東日本大震災復興支援活動

東日本大震災の発災以降、本学では宮城県石巻市での復興支援ボランティア活動を毎年行ってきました。2020年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により、継続的な活動を行ってきた同市雄勝町に行くことができませんでしたが、発災から10年を迎える節目の年に際してセンターでは東日本大震災復興支援フォーラム『発災から10年 あらためて震災をふりかえり、その経験を「知恵」とする』を企画し、オンラインで開催しました。205名の方にご参加いただきました。

◆東日本大震災復興支援フォーラム

発災から10年 あらためて震災をふりかえり、その経験を「知恵」とする

○第一部 東日本大震災をふりかえる



学生スタッフより、これまで本学が取り組んだ東日本大震災復興支援活動や、自身が参加して感じたことなどをスライドを用いて報告しました。



千葉県の特別支援学校で教員をしている白土奈央さん（法学部卒業生／元学生スタッフ）から、在学中に参加した復興支援ボランティアの体験と、教員になってからの経験を通して感じることをお話いただきました。

○第二部 基調講演 「3.11 を学びに変える」佐藤 敏郎 氏

本学の復興支援ボランティアにもご協力いただいている元教員の佐藤敏郎さんより、津波で次女を亡くされた実体験に基づいたお話を伺いました。



○第三部 「これからの災害とどう向き合うのか」

長谷部 治 氏（神戸市兵庫区社会福祉協議会 地域支援課 課長）

筒井 のり子（龍谷大学社会学部教授／ボランティア・NPO 活動センター長）

学生時代の阪神淡路大震災でのボランティアをきっかけに現職でも災害支援に関わっておられる神戸市兵庫区社協の長谷部治さんより、「これからの災害とどう向き合うのか」というテーマでお話いただきました。



○学生スタッフの関わり



当日の司会は両キャンパスの学生スタッフが務めました。慣れないオンラインでの運営でしたが、無事に大役を全うしました。

休憩の間に放映した動画は学生スタッフ動画チームが作成しました。学生スタッフ同士が協力して、過去の復興支援活動の写真を使って動画にまとめました。



『花は咲く』を歌唱



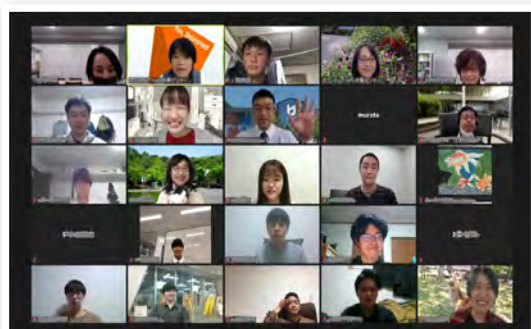
入澤崇学長をはじめ、当日登壇したメンバーで記念写真



●学生スタッフの活動の様子

◆オンライン会議（詳しくは P35 ～ 36）

ボランティア・NPO 活動センターでは、学生スタッフが参加する3つの会議を定期的
に実施しています。今年度の会議はすべてオンラインで実施しました。場所や距離の制約
を受けることなく、学生たちは、自宅や教室、校内、時には電車の中から会議に参加し、
センターの事業について活発な意見を交わすことができました。



オンライン開催のボラセン会議



距離をとって PC やスマホから会議に参加

◆センターでのボランティアコーディネート

2020 年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大の
影響により閉室していた期間も長かったため、例年
に比べると来室者は半減しました。そんな中でも来
室してくれた学生には、感染防止の対策をしっかり
講じた上でコーディネートを行いました。



感染防止の対策について、学生スタッフが来室
者に分かりやすいようにいろいろと工夫をしながら
活動を行いました。

◆新歓活動



例年であれば4月から新スタッフの新歓活動をしていましたが、今年は時期をずらして後期を中心に行いました。

◆センター紹介（詳しくは P40）

実際に授業に出向いてセンター紹介をするだけでなく、授業時間を使ってセンターを見学していただくこともあります。その時には学生目線でボランティアの魅力をわかりやすく伝えています。



◆センターでの学生スタッフの活動（詳しくは P62 ～ 90）

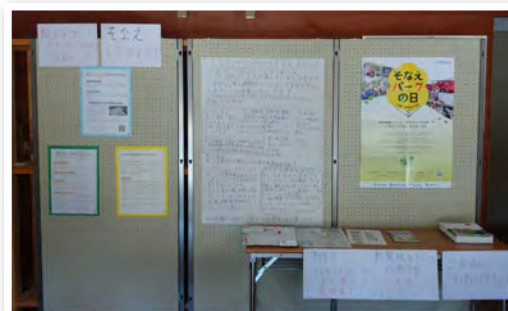
○大津祭ボランティア～コロナだから今できること～

例年協力してきた大津祭も本年は中止に。
そんな中でもできる事を考え、Twitter での投稿や学内周知のための展示物を作成しました。



○防災・減災そなえパークの日 展示

本年は「防災・減災そなえパークの日」のイベントも中止に。地域の方々に防災について学ぶ機会を提供したいとの思いから、びわこ文化公園と瀬田公園体育館で展示を行いました。





●ボランティアに関する講座や研修①

◆ボランティア入門講座（詳しくは P42 ～ 45）

体験活動を伴うボランティア初心者向けの講座を実施しました。ボランティアについて学ぶ講義はオンラインで行い、後日、8か所で少人数に分かれてボランティアを体験しました。



深草児童館での活動



山科地域での河川清掃活動



竹林整備



医療用ガウン製作



●ボランティアに関する講座や研修②

◆海外体験学習プログラムオンラインスタディツアー（詳しくは P48 ～ 50）



海外でのボランティア等に関心のある本学学生向けに、貧困・福祉・環境問題など様々な課題を抱える国を訪れ、その現状に触れながら現地の NPO・NGO などとの交流を通じて体験的に学ぶプログラムを実施しています。

今年度はフィリピン、タイとライブでつながり、現地の方のお話を聞くオンラインスタディツアーを実施しました。

◆国内体験学習プログラム（詳しくは P51 ～ 61）

国内の様々な地域の住民、NPO 等との交流を通じて、地域の抱える問題に触れると共に、ボランティア等の体験学習を通じてより深く社会の問題について考えるきっかけを作るプログラムを実施しています。本年は春期の長期休暇中に 2 つのプログラムを実施しました。



滋賀県近江八幡市のプログラム



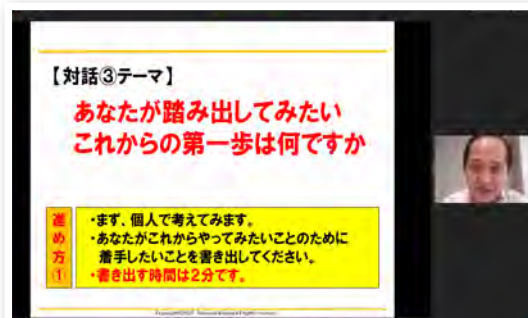
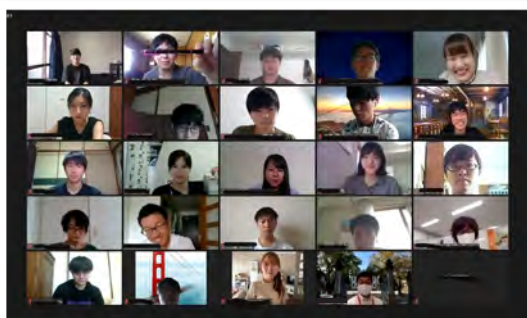
福島県のプログラム（オンライン開催）



●ボランティアに関する講座や研修③

◆ボランティアリーダー養成講座（詳しくは P46）

ボランティアやサークル活動などを行っている学生を対象に、スキルアップ講座を実施しています。「ピンチをチャンスに！柔軟な発想を生み出すスキルを学ぶ」をテーマにオンラインで行いました。



◆ボランティアコーディネーションカ3級検定（詳しくは P47）

ボランティア活動をしている学生がこれからの活動にも役立てられる「ボランティアコーディネーションカ3級検定」の直前研修と試験を、本学にて実施しました。



◆サークル情報交流会（詳しくは P68 ～ 69）



サークル情報交流会をオンラインで3回実施し、様々なサークルがZoomを使ってつながりました。コロナ禍での活動状況やそれぞれの課題などを情報共有することができました。